

基本理念・将来都市像（素案）について

1. 定義と役割

(1) 定義

- ・ 基本理念：まちづくりを進めるうえで大切にしたいこと（ポリシー）
大切にしたい など
- ・ 将来都市像：目標とするまちの姿（ゴール）
のプロになりたい、な人に好まれるまちにしたい、を目指したい など

(2) 役割

- ・ 市の個性やまちづくりについての基本的姿勢を端的に広く示す。
- ・ 総合計画（特に土地利用方針、まちづくり重点戦略）をはじめ、各分野における計画を策定・改定する際によりどころとする（方向と姿勢の統制）。

2. 検討のポイント

“言葉遊び”に終わることなく職員・市民・全国に対して求心力あるスローガンの作成を目指し、論理性（内容、言葉の深み・重み）と表現力（イメージ、言葉の響き）の双方を意識しながら検討する。

(1) 新市建設計画・市民会議素案を前提とした検討

別紙参照

(2) 政策との連動性・意味のある言葉の使用（市内への発信）

上越の歴史・特性や直面する課題を十分にふまえつつ、「まちづくり重点戦略」や「土地利用方針」「地域別構想」などのよりどころとなり、総称するような言葉を用いる。

(3) 市民感覚にあった言葉の使用（一般市民への発信）

地域住民が上越を端的に紹介でき、ライフスタイルをイメージできるなど、自分のこととして捉えられる言葉でもある必要がある。

あくまでも目標であるため、現時点で完成形にある必要はない。

(4) 上越市のイメージの端的な表現（全国への発信）

全国に上越市を発信する観点からは、上越市の個性・特性（上越市は のまち）を端的かつ具体性をもって表現できる普遍的な言葉が望ましい。

例：未来、自然、緑、歴史だけではまちの特徴がわからない

実質的な経済基盤となっているものと市のイメージとしたいものは異なってもよい。

(5) 言葉の絞込み

- ・ 言葉を盛り込みすぎるとメッセージ性が希薄になり、スローガンというよりも作文になるため注意が必要である。
- ・ 将来都市像や基本理念に多くの事象を入れ込もうとすればするほど総花的となり、「安全」「安心」「快適」などのように一般的な表現になりがちである。この場合、言葉の深みをもって使用する場合を除き、政策のよりどころにすることが難しくなるため注意が必要である。
- ・ 政策分野の観点から表現される「健康」「福祉」「教育」「産業」などの言葉は、当然のことながらどれも重要であるが、特定の分野に絞り込むことは他の分野との相対的な差を生み出すことにつながる。

これらの言葉は将来都市像・基本理念に直接的に表現されなくとも、それぞれの重要性については施策の大綱～施策の体系～分野別計画でしっかり担保していく。

(6) なじみの少ない言葉の使用について(注意点)

- ・ あまり聞きなれないような言葉を用いた方が、かえってインパクトを与える可能性がある。ただし、「意味がわかりづらい」と却下されるようなものではなく、「だからこそこれを機会に覚えてもらう」と言えるくらいの強い意味を持った言葉であるべきである。
(新市建設計画の将来都市像では「なりわい」がこれに該当する)
- ・ 一般的になじみの少ない英語は、理解度の問題や、時代の流れによる磨耗度合い(ブームの変化)も早いことから、できるだけ用いないことが望ましい。

3. 基本理念・将来都市像を構成するキーワード(案)

3-1 基本理念

(1) 次世代につなぐまちづくり(まちの「持続可能性」を保つ)

- 右肩上がり思考の転換は必須 -
- ・ 人口減少、財政難の時代においては、社会(人口、コミュニティ、地域への愛着と誇りなど)、経済(市財政、地域経済)、環境(生活環境、自然環境、地球環境)面からの持続可能性を前提とした地域経営が必要となる。
特に、右肩上がりの発展を前提として進められてきた政策については、将来世代に禍根を残すことのないような英断も求められる。

(2) 人を育むまちづくり、まちを育む人づくり

市民の「生きがい」、地域への「愛着」と「誇り」を育む

- 基本は、上越市に住み続けたい、戻ってきたいまちづくり -
- ・ 市民1人1人が、地域の中での存在意義(居場所)やライフワークを見出すことができるまちを目指したい。それは個人の生きることの喜びや幸福感(生きがい)から、地域への愛着、誇りへとつながっていく。
- ・ 上越市への愛着は、「上越市に住み続けたい、戻ってきたい」という意欲や、上越市を支えようとする力の源泉となり、上越市全体の活力にもつながっていく。
- ・ また、市民が愛着や誇りを持てる地域資源であれば、今は市外の人からあまり評価されていないものであっても、いずれ魅力へと昇華する可能性を秘めている。(反対に、市民が愛着や誇りを持ち得ないものであれば、継続した魅力となりえない。)

上越らしい「ライフスタイル」の実現

- 厳しい時代背景ではあるが、真の豊かさを求める前向きで生活実感のあるまちづくりを -
- ・ このような思いの積み重ねが、上越らしい多様なライフスタイルの実現につながっていく。これは、上越市が、力強さのある都市空間と安らぎのある生活空間を持ち続けていくためにも必要不可欠なことである。
- ・ 戦後の高度経済成長は、個人として、社会として利便性・快適性・効率性を追求することによって実現され、その結果、多様な価値観とライフスタイルはすでに実現されているとみることもできる。
- ・ しかし、それらの近視眼的な追求のみを続けると、総合的には非効率な状態となったり、その積み重ねが結果としてまちの多様性を低下させ、上越らしさや魅力の喪失、ひいては都市空間と生活空間の多様性や質を低下させることにもつながっていく。
- ・ 行政は、表面的な市民ニーズにだけこたえるのではなく、俯瞰的視点に立って真の市民ニーズにこたえていく姿勢が求められる。そのことによって、まちの力が市民の豊かなライフスタイルを支え、市民のライフスタイルがまちの力(都市としての格、ブランド)を高めていく好循環を構築していきたい。

(3) 個性と調和、自立と共生によるまちづくり

市町村合併の意味を改めて問う

- ・ 上越市が持続可能な発展を遂げるためには、多様な市民や市内の各地区がお互いを認め合いながら切磋琢磨を行い、それぞれの個性を魅力へと高めながら市外へ広く発信するとともに、市全体として調和ある輝きを放つような「一体感」の醸成が必要である。
- ・ そもそも合併前上越市や旧町村は、古より歴史・自然・経済などの面から深いつながりを有しており、いわゆる運命共同体とも言える。市町村合併と都市内分権の推進は、その絆を再認識し、一体感の醸成を可能にする制度構築である。
- ・ これからのまちづくりでは、真の意味での「チームプレー」が求められている。
- ・ 各地区が個性を持つ「多様性」のあるまちは、ライフスタイルの豊富な選択肢を提供する。また、それぞれの個性が共鳴することで新しいものを生み出す大きな可能性を秘めている。さらには、一つの影響では大打撃を受けないリスクマネジメント的な要素ももっている。
- ・ 多様性は、違いを認め合う心を育み、違うものが出会うからこそ生まれる新たな価値を創出する源泉である。
- ・ しかし、都市間競争の時代においては、その「多様性」が淘汰されることによる衰退や画一化、もしくは個性の過度な主張による対立構造を生み出すことも少なくない()。

多様性維持のためには、絶え間ない努力が必要である。

市内の市街地（行政運営の経済的効率を懸念）対中山間地（一極集中への懸念）といった対立構図など、東京対地方の縮図が生じることも懸念される。

3 - 2 将来都市像

(1) 自然の恵み（海・山・大地 / 農・雪）

なりわい、愛着と誇り、上越らしさ、そして人間性を育む

- ・ 愛着と誇りは、「上越らしさ」に触れることから始まる。上越市民の多くは、豊かな自然に愛着（アイデンティティ）を感じている。
- ・ 一方で、農業を含めた自然の経済的価値や市民生活の中で触れ合う度合いは低下傾向にある。そのような意味では、多様性のある恵まれた自然環境にありながら、本質的な意味で自然と接している機会が多いとは限らない、
- ・ 自然は、冷たくてあたたかい、厳しくてやさしい、災害と恵みをもたらすなどの二面性もっており、上越市の気候は特にバラエティに富んでいる。古より、人は自然に生まれ、様々な知恵や感性、体力、人間性を磨き上げてきた。
- ・ 「人」の力が重要視される時代においては、豊かな人間性や強い体など、心・技・体の整った魅力ある人間を育むことのできる環境を再評価し、価値を見出していくことが可能である。

(2) 交流と連携

交流による総合力の強化

- ・ 上越市は古より交通の結節点にある都市として栄えてきた。また、様々な地域区分における境界付近に位置している。
- ・ 一方、上越市と周辺都市の位置関係（地勢）を考慮したとき、上越地方の中心都市としての機能のみを考えたまちづくりでは、周辺都市からのストロー現象による衰退の危険性も高い。経済的な持続可能性の側面から、上越市が今後も都市として存在し続けるためには、広域的な交流促進が不可欠となる。
- ・ 本格的な人口減少社会、新幹線開通への準備期間として、交流の必要性和ポテンシャルの双方があると言える。

連携による都市機能の強化

- ・ 都市間競争時代の中で、上越市が自主性と独自性を持った都市であり続けるためには、都市機能や都市のテーマ性についての検討が必要である。
- ・ そのためには、特に市外からの利用をも想定する高次都市機能については、周辺都市との差別化や地域連携を意識した配置が必要となる。
- ・ また、市内の各地区を競合関係とするのではなく、それぞれの個性をいかした役割分担をし、一方で切磋琢磨しながら、それぞれがその専門性を磨き上げていく必要がある。（上越市の中の地区であり、全国の中の地区であってほしい）

(人・もの・情報が) 出会い、創造するまち

- ・ 子育てや教育、防犯、防災などの様々な分野において、人と人とのつながりの希薄化が一つの要因となっている問題も少なくない。多くの社会問題が複雑化・多様化する中、知恵の時代とも言われている。
- ・ 人口減少を前提とした社会であるからこそ、改めて人のもつ力や、人と人が出会うことで生まれる新たな力に着目したい。
- ・ 情報社会の進展により、メディアなどを通じた間接的な情報が溢れている時代であるからこそ、人からの人への直接的な情報を重視すべきである。
- ・ 上越市には、地勢的・歴史的にそれを具現化できるポテンシャルがあると考えられる。
- ・ 人と人との交流を通じて、地域にとっての「外貨」を直接的に獲得する効果もあるが、もっとも重要なことは、人との出会いを大切にし、市内外を問わず上越に愛着を持った「上越サポーター」をつくることである。豊かな人間性と魅力ある人が魅力ある人を呼びこみ、知恵が知恵を集め、地域活性化の源泉となっていく。人は最大の資源であり、その結果得られる力は絶大である。
- ・ 一方で、人・もの・かね・情報の流れが盛んになることによって、様々なものが流入することによるリスクへの備えも必要がある。このとき、市内の交流を通じたつながり（絆）も大切にすることで、安全・安心な空間を生み出すことが可能である。

まちづくりの基本理念

豊かさ、安らぎ、快適な生活を市民が支えあう自主自立のまちづくり

まちづくりは、そこに住み、生活するすべての人々が、物質的にも精神的にも豊かさを享受し、安全・安心に快適な生活を送ることができる、そしてそれを可能にする環境を整えることが一番大切なことです。

そして、厳しい経済状況や少子・高齢化など、社会経済の構造が大きく変化する中で、ものと心の豊かさ、安らぎや快適な生活は独りでに得られるものではなく、市民一人ひとりが役割を担い、支え合い、行政と協働してこそ実現することができます。

これまで、どちらかと言えば国や県に頼りがちであった市町村も、地方分権の流れの中で「自己決定、自己責任、自己負担」の原則の下、自主自立の運営が必要となっています。

私たちが目指すのは、受け身であったり一方的に頼ったりするのではなく、市民が自主的に支え合い、まちや地域として自立していける姿です。そこでは人(個人)が自立し、地域経済が自立し、行政も自立して、それぞれの役割をしっかりと担い、協働していくことが何よりも大切になります。

このため、まちづくりの基本理念を「豊かさ、安らぎ、快適な生活を市民が支えあう自主自立のまちづくり」とし、すべての市民の参加を得て、よりよいまちをつくっていくことを目指します。

新しいまちの将来像

海に山に大地に なりわいと文化あふれる 共生都市上越

新しい上越市は、人口が21万人を超える、力を持った都市となります。

お互いの良さをいかしながら、共に支え合い、共に生きていく“共生都市上越”。海、山、大地という自然とのかかわりの中で、この地域で暮らしを立てる仕事を受け継ぎ、あるいは創り出しながら、共に新しい未来を築いていくまちをつくります。

<海、山、大地に恵まれた都市>

新しい上越市は、海、山、大地に恵まれ、都市的な利便性と豊かな自然を合わせ持つ都市になります。ここに、豊かさと安らぎ、快適な生活を可能にする新しいまちの姿は、“なりわいと文化あふれる共生都市”だと考えます。

<なりわい>

「なりわい(生業)」は、古くは「農業」又は「その作物」を表し、生活のための職業、営みを意味します。ここでは、海、山、大地という自然とのかかわりの中で、この地域で暮らしを立てる仕事を受け継ぎ、あるいは創り出していこうという意味合いがあります。

上越地域は、恵まれた自然条件をいかした農林漁業、交易、人口集積をいかした商業、明治初期の我が国石油化学産業の草分けとも言える石油精製業などに始まる近代的製造業など、歴

史的に見ても安定した豊かな経済活動が行われてきました。

しかし、直面する世界的な社会経済の大きな変化に対応していくためには、更に足腰の強い経済基盤を築いていくことが必要とされています。これは、福祉などの行政活動を支える税収を安定的に確保するためにも不可欠のこととなっています。

<文化>

これからは心の豊かさがより一層大切になる時代です。心の豊かさを実感できる文化のまちが、新しい上越市で実現を目指すもう一つの都市像です。特に大切にしたいのは生活の文化、もてなしの文化です。

恵まれた自然条件の中で、農林漁業に携わる人々に限らず、自然を尊び、自然との共生を学ぶことを通じて私たちの生活文化は培われてきました。こうした文化から、自然との共生を目指す人々、地球環境を大切にしようとする多くの人々との広く、深い共感につながる豊かな心が生み出されていきます。

豊かな自然の中でスローライフを実現でき、豊かな心を持つ人が住むまちは、その魅力で、人が訪れてみたい、そして住んでみたいまちになります。訪れる人を満足させ、もてなす側も満足を分かち合う。これがもてなしの文化です。自然と歴史遺産、交通条件に恵まれたこの地に、もっと多くの人々が訪れてほしい、そして住んでほしいと考えます。そのためにも、これまで培ってきたもてなしの心を大切にする、もてなしの文化あふれるまちにしたいと考えています。

まちづくりの基本理念

まちづくりで大切なことは、そこに住むすべての人々が、地域社会の中で、それぞれが個性ある人間として尊重され、ふれあい、助け合いながら、物質的にも精神的にも豊かさを享受し、安全・安心で快適に暮らせる環境を整えることであり、市民一人ひとりが輝き、自信と誇り、そして愛着が持てるまちにすることです。

そして、それを実現するには、市政の努力はもとより、市民一人ひとりが主体的に役割を担い、お互いに信頼をもって支え合いながら、地域社会で交流・連帯し、行政との協働により、新たな魅力を創造していくまちづくりが必要であると考えます。

また、美しく、恵まれた自然の中で、豊かな心を育み、先人の知恵と努力の結晶であるそれぞれの地域の個性ある生活や文化を大切に活かしながら、ものと心の豊かさや安らぎを、次の世代へとつなげていくことは、現代に生きる者の使命であると考えます。

そこで、こうしたまちづくりの基本的な考えを次のようにまとめ、新しい第5次総合計画の基本理念とします。

みんなでまちを創っていく

市民のつながり、支えあいを高めていく

豊かさ、安らぎを育み、次世代につなげていく

目指す将来都市像

私たちは数十年に一度の大きな変革となった市町村合併により“一つの自治体”として生まれ変わった新しい上越市において多様な地域の個性と市民の英知を結集して自立しているまちを目指します。

海に山に大地に 輝きあふれる 自立都市・上越
～安全・安心で快適なまちを目指して～

次の思いを込めて掲げます。

広大な市域に、海、山、大地の恵まれた自然環境を有し、各地域に長い歴史・伝統文化が息づくまちで、地域の特性・資源を活かしながら、自然、人、地域、産業、街、それぞれが輝く、元気と活力のあふれるまちを目指す。

それぞれの輝きをつなぎ、新しい価値を創造し、まち全体の輝きと自立を高め、より安全・安心で快適な暮らしを可能にする力強い自治体“上越市”を実現したい。